

新年度をむかえて

共通教育主管 奥田一雄

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。在来生のみなさんは新入生を迎えたので、1学年ずつ先輩となりました。ともに高知大学で勉学に励んで充実した学生生活を過ごします。キャンパスではソメイヨシノが咲き誇り、ナンキンハゼの若葉が芽吹く。学年暦が春に始まるのはとても気持ちがいいものです。

大学での勉学と研究、それからサークル活動、ボランティア、アルバイトも、よき社会人になるための血となり肉となります。自ら進んで学ぼう、トライしようという意欲をもつことは大切です。いままで知らなかった知識や考え方を学びつつ、友達やさまざまな人々と接しているうちに、自分の視野がぐんと広がってきます。それは単に頭が良くなるだけではなくて、自分が社会に能動的に関わることができ、そのなかでさらに学んでいくというすべを獲得することです。これが大学での学びであると思います。

みなさんはそれぞれ異なる学部、学科、課程に所属していますが、何よりも前にみなさん全員が高知大学の学生です。共通教育では、さまざまな学問分野で研究されている高知大学のすべての先生から学ぶことができます。日本や世界のこと、自然界のことなど色々なことを知りたいとか、外国語を自由に使いこなせたらいいなあとか、一度やってみたかったスポーツ種目を楽しみたいとか、インターネットで情報を発信したいとか、専門の基礎をしっかりとかためたいとか、学んでみたいことがいっぱいあるでしょう。このようなみなさんの希望をかなえるのが共通教育です。多様なバックグラウンドをもつ教員が語る学問のおもしろさに感動できるこのチャンスを大いに活かしましょう。

大学は学生と教員と事務職員の共同体です。学生サービスセンターには、学生と教員を支えてくれる事務職員の方々がおられます。履修登録や成績の発行

などの手続きをはじめ、履修に関するいろいろな相談に応じてくれます。窓口で大きな声であいさつをしてください。そうすればきっと、笑顔で何でも親切に教えてもらえるでしょう。その学生サービスセンターの奥には、私もいます。

私と全学から選ばれた教員で共通教育委員会という組織をつくっています。この委員会は共通教育のカリキュラムや授業を担当する先生を決めます。また、授業の方法や内容をもっとよいものにするにはどうしたらよいかについても話し合っています。昨年末に他大学の先生たちをお招きして、高知大学の共通教育が適切に行われているかどうかを細部にわたって点検していただきました。その結果、高い評価をもらったものも多々ありましたが、改善すべきいくつかの課題をいただきました。たとえば、同じ題目の授業で内容のばらつきが大きすぎるとか、科目区分や時間割の関係で学生の選択できる授業が限られているとか、高知大学の教員が気づかなかったいろいろな問題点が洗い出されました。現在、これらの問題をどのように改善していけば良いか、その方法を話し合っているところです。私達教員は高知大学の共通教育を一層充実させるように努力します。そのためには、みなさんから共通教育に対する率直な意見や批判を聞くことがもっとも大事だと考えています。

最後に、私自身のプロフィール。私は大阪府に生まれ、ゴジラ（怪獣）と同じ年です。開通したばかりの新幹線を「夢超」（ゆめちょう）＝「夢の超特急」と呼び、裏表両方使えるジャンパーの袖を鼻水でカバカバにしながら育ちました。現在は理学部自然環境科学科の生物科学講座に所属して、植物の細胞を電子顕微鏡で観察しています。コンタクトは、okuda@s.kochi-u.ac.jpまで。